

2026年4月から

生まれてくる赤ちゃんのために妊娠中に接種する

RSウイルスワクチンのご案内

京都山城総合医療センター 産婦人科



2024年6月から、生まれてくる赤ちゃんがかかる可能性があるRSウイルス感染症

予防のため、妊娠中にワクチン（注射名：アブリスボ）が接種できるようになり

ました。接種希望の方は妊婦検診時に担当医に申し出てください。

○接種する時期

妊娠28週から36週の妊婦さん、推奨は28週から34週

（ただし接種後14日以内に赤ちゃんが産まれた場合には効果が不十分なことがあります）

○接種方法 筋肉注射、1回

○費用 約3万円 公費となります、お住まいの市町村にお問い合わせください

○ワクチンの効果が持続する時期 出生直後からおおよそ生後6ヶ月まで

ワクチンについて詳しく知りたい場合には担当医に申し出てください

【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は新生児や乳幼児においてはウイルス性の風邪の主な原因のひ

とつであり、ほぼ全てのお子さんが2歳までに感染するとされています。症状は感

冒症状から上気道症状（鼻詰まり、鼻水、くしゃみ）、下気道症状（咳、呼吸困難、ゼーゼー、ヒューヒューといった喘鳴）まで様々ですが、特に産まれて6ヶ月までのお子さんが重症化しやすいです。2歳未満の医療機関を受診したお子さんのうち4人に1人で入院が必要で、このうち産まれて6ヶ月までのお子さんが4割を占めていました。現在RSウイルス感染症について治療法は確立されておらず症状を和らげる対症療法や呼吸を助ける治療が主体です。重症のお子さんについては入院し、酸素投与や人工呼吸器が必要となることがあります。



詳しくはこちらの二次元コードから！